

研究計画書

① 研究の名称：Hybrid ER における CT を使用した Traumatic Bleeding Severity

Score: 単施設後向きコホート研究

② 研究の実施体制：

東京都立墨東病院救命救急センター

山岸 利暢, 杉山 和宏, 柴橋 慶太, 藤田 英伸, 大倉 淑寛, 三上 学, 濱邊 祐一

③ 研究の背景、目的及び意義：

外傷初期診療においていかに大量輸血を要する患者を選別し、外傷性凝固障害を念頭に赤血球輸血と新鮮凍結血漿輸血、血小板輸血を適切な比率で行うかは重要である。本邦から胸部・骨盤X線、腹部超音波(FAST)などを用いたTraumatic Bleeding Severity Scoreが大量輸血を予測するスコアリングとして有用であると報告された。当院ではHybrid emergency room (ER)での診療を行っており、重症外傷患者に対しても移動することなく、初療室でComputed Tomography (CT)の撮像が可能となった。今回、オリジナルのTBSSの評価項目のX線、FASTの項目をCTで、血圧の項目は来院時血圧を採用し(modified TBSS-CT)、大量輸血の予測スコアとして使用できないかを検証した。

④ 研究の方法及び期間：

電子カルテを用いて、2014年8月～2015年7月の期間で後方視的に検証した。

⑤ 研究対象者の選定方法：

Hybrid ER に收容された年齢18歳以上かつ、injury severity score (ISS) ≥ 16 の外傷症例に109例に関して検証した。

⑥ 研究に関する研究成果の公表方法：

論文で公表する予定である。